

静寂な森に響き渡る

第14回飯高檀林コンサート情報

日時：10月11日(日) 13時30分
 開演(予定) 場所：飯高寺
 (飯高檀林跡) 出演者：
 ヴァイオリニスト ジョン・チャヌ 共演：豊島雄一(声楽)、武田香奈子(ピアノ)

内容：東京交響楽団や韓国国立交響楽団のコンサートマスターを務めたジョン・チャヌ氏のヴァイオリンコンサート

生涯学習課生涯学習室
 ☎ 67・1266

お盆の棚流し

後始末はきちこつまつり

お盆が終わると、河川や道路肩などに棚流しされた供物などが、放置されているケースが見受けられます。そのまま放置すると、生活

環境を破壊する原因となりますので、責任をもって後始末をしてください。

環境生活課環境班
 ☎ 73・0088

飲み物をサービス

8月2日の日曜朝市

毎週日曜日、市役所南側駐車場で行われている日曜朝市では、8月2日、日ごろのご愛顧に感謝し、冷たい飲み物のサービスを行います。

また、採れたての新鮮な農産物、おいしい手作りの加工品などを用意してお待ちしております。

時間：7時～(30分程度)
 産業振興課農政班
 ☎ 73・0089



文芸コーナー

短歌

土屋 耕一 推薦

地デジとうテレビを娘が買いくれて八十五歳生き甲斐感す

久方 大木よ志子

生い茂る葦野の中に葦切は朝から晩まで嘯り続く

椿 日色 和江

キャベツの葉芯のみ残す青虫を目をつむり潰す虫嫌いの吾は

上谷中 林 かつ

「千の風」聞きつつ涙こぼれたり吹いておくれよこちらの方に

平木 戸村とき子

果てのなき青空見上げ朝の庭に声高らかに歌を唄いぬ

八日市場イ 大川 八重

細やかなヘルパーさんの介助にて新築の風呂に入りてくつろぐ

八日市場イ 山崎 朝子

積りたる疲労の回復はかどらず年重ねきし現実と知る

上谷中 林 房子

日々飽くも無く折り続ける千羽鶴老いの手やわら心豊けし

山桑 佐藤 泰子

川口 城司 推薦

繁りたる葉群抽き立つ浜木綿の純白の花あたりを払ふ

今泉 熱田千代子

うぐひすの整へる声ひさびさに家居をめぐり位置変へて啼く

栢田 小川 知至

株分けをしたる鉄線大輪の紫の花陽を照り返す

野手 石田 秀子

歌詠めぬ私の焦りを煽るがに里の森にて梟の鳴く

今泉 小川みさ子

俳句

西野 棠雨 推薦

噴水の風に折れたりよろけたり 八日市場イ 菅谷たけし

図書館だより



休館日… 8月5日(水)
 ・毎週月曜日
 日曜日の開館時間… 9時～17時

◆図書館たんけん参加者募集

図書館の中を、いつも見ている表面だけでなく、ふだん見られない裏側も探検します。

夏休みの宿題のヒントもたくさん。図書館員体験もできます。ぜひご参加ください。



日時… 8月11日(火)・12日(水) 14時から約2時間
 対象… 小学校3～6年生
 定員… 各日先着10人(事前にお申し込みください)
 参加費… 無料

◆8月の「おはなし会」開催日

日程… 1・8・15・22・29(土)
 時間… 15時から約30分間
 アドレス <http://www.library.sosa.chiba.jp>
 問 八日市場図書館 ☎ 73-3746 (17時まで)

野手の庚申塔

村や集落の足跡

匝瑳 探訪

- 40 -

野手地区竜蔵院参道入り口に子安大明神がまつられ、門口に「庚申（こうしん）さん」とよばれる石造物があります。この庚申塔に刻まれた文字から次のことがわかります。

子安大明神の敷地は、大木太右衛門が寄付し、1740年（元文5年）8月22日に野手村上野馬場（上ノ馬場）集落のすべての講仲間と大木太右衛門、伊藤太良兵衛が願主となり庚申塔が立てられました。

野手村をはじめ地域の村む

ら（現在では大字単位）は400年ほど前には生活圏である村域が確定しました。

野手村は初め、押田氏による支配でしたが、1670年（寛文10年）ごろには4つの支配に分けられました。村の規模や米の生産量を示す村高は当時11550石（こく）で市域58（旧八日市場地区52か村・旧野栄地区6か村）か村では最多でした。このころから「上ノ馬場」など小集落ごとの活動が多くなったようです。幕末ごろには家数315軒ほどの市域2番目の大村となりました。

竜蔵院入り口にある庚申塔
（野田地区野手）

庚申塔は円長寺門前にも2基あり、1708年（宝永5年）5月に立てたものには熱田、佐久間、大川、伊藤、石毛、渡邊を名乗った12人の名が刻まれています。信仰仲間で組織する

講員が村での有力な農民層とみられ、仲間すべての苗字と名前を刻んでいることが特徴といえます。

これより32年後の1740年10月に立てられた塔には、苗字を刻まない、例えば「左兵衛、善兵衛」など43人の名前があります。

野手の3基の庚申塔から、1708年には有力農民だけの庚申講があったこと、1740年には「上ノ馬場」集落単独と他集落の講仲間により庚申塔を立てたことが知られます。

庚申講は、男性の集まりで60日ごとに巡ってくる庚申（かのえさる）の日に宿（やど）に集まり、食事や歓談し夜を過ごす行事でした。そして60年ごとの庚申年を記念して庚申塔を立てました。

旧八日市場市域では真言宗や天台宗寺院の檀家（だんか）の村むらでは村ごとや集落ごと、あるいは個人などで庚申塔を立てました。古いものでは1680年（延宝8年）のものが八日市場村、大寺村などにあり、60年後の1740年、1800年、1860年と次第に増加しました。

問 八日市場図書館 ☎ 73・3746

格子戸に梅雨の重さのありにけり 八日市場二 中川まさ子
青丹あおたんによし寧楽ねいらくの都の蝸牛かたむし 春海 浜野 隆志
その先はもう急ぐまい蝸牛 若潮町 光瀬江子
滴りの果ては大河か大海か 横須賀 吉野 ヨシ
巻き戻す人生の欲し振り花なげ 高 伊藤 友子
神水を口にふふみて薄暑かな 飯高 安藤 建子
涼しさや昔恋しい通し土間 蕪里 山崎 伸

川口 城司 推薦

青蛙蛇口に正座きのふけふ 栢田 伊藤 貞子
鶯の鳴き声弱し雨降りて 栢田 加瀬 潔子
口あけて寄り来し金魚二匹買う 栢田 櫻井富実雄

川柳

高梨 果宝 推薦

健康で趣味三昧に老い知らず 木積 佐久間美智子
三度目の手術も終わり梅雨も晴れ 大浦 須合ひろし
三猿の口覆う手が又外れ 飯塚 鈴木ツネ子
あの頃の三つ指多少皺が増え 八日市場イ 森 あつし
境遇が似た者同士気持合い 八日市場イ 常世田やす子
同病の悩みいつしか友となり 旭市二 榎本ひかる
夏まつり助っ人が来て盛り上がり 八日市場イ 伊藤さとこ
ひまわりがギラツク夏を追い回し 八日市場イ 鈴木十世志

川口 城司 推薦

ころんだら立つこと出来ぬ身のつらさ 川辺 加瀬きよ子

匝瑳探訪

あて先：匝瑳市秘書課広報広聴班

〒289-2198

匝瑳市八日市場ハ793番地2

☎ 73・0080 FAX 72・1114